

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◆教育目標「つながり・チャレンジする子どもたち・学校」を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆共生社会の形成に貢献する「特色ある特別支援教育」を推進し、これからの特別支援教育において積極的な役割を果たす学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中でより良い生活を実現する力を獲得するために、「わかる」「できる」力を伸ばす教育を実践する学校を目指す。</p>	<p><学校経営></p> <p>今年度もコロナ禍の状況に対応し、学校経営方針を具現化すべく各学部、各校務を中心としたスモールマネジメントで運営することができた。</p> <p>職場環境の形成については、ICT等を活用した取組を進めることができたが、勤務時間の意識化や効率化の面では課題が残った。</p> <p>活動内容を吟味するとともに環境調整を徹底し、日常的に新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めることができた。</p> <p>学校運営協議会については、年3回の実施ができ、学校運営に関わる具体的な協議ができた。</p> <p><教育活動></p> <p>縦割りのグループごとに授業研究を進めることができたが、全校としてより焦点化した研究推進が必要である。</p> <p>ICT機器利活用については、全校研で先行実践の発表や紹介を行い、授業改善を進めた。後期研究授業月間では、ICT利活用をテーマに学部を越えた実践交流に取り組んだ。</p> <p>交流及び共同学習については、各学部、関係機関と連携をとり、連携先の新規開拓を進めながら、直接・間接・リモートを組み合わせた交流の取組を実施できた。</p> <p>各学部で福祉制度、卒業後の進路等についての学習会や、保護者対象の説明会や研修会を実施し、進路だよりの発行等での情報提供ができた。今後もニーズの把握をもとに情報共有機会の強化の必要がある。</p>	<p>3つの安心を目指す学校作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> *児童・生徒が安心して学ぶことができる学校 *保護者・地域が安心して託すことができる学校 *教職員が安心して働くことができる学校 <p>○学校経営</p> <p>1安心・安全の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な危機管理と安心・安全に対する意識の向上。 ・緊急時を想定した訓練や防災教育の計画的な実施。 ・法令に基づいた医療的ケアの実施と徹底した感染症拡大の防止の徹底。 <p>2コンプライアンス意識の向上と徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員、社会人としての服務に対する意識の徹底。 ・人権意識の高揚とあらゆる教育活動とおした人権教育の推進。 ・学校への信頼を高めるためのチーム力の向上。 <p>3働きやすい環境作りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府「働き方実行計画」に基づいた業務改善の推進。 ・自分を大切にする気持ちと他者の気持ちを大切にする職場環境の形成。 ・「来たときよりも美しく」を心がけた環境整備。 <p>○教育活動</p> <p>1新学習指導要領の趣旨を踏まえた日常的な授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の多様性と可能性を意識した授業の推進。 ・卒業後を見通した、連続性のある教育課程作り。 ・ICTを有効に活用した創造性を育む授業の推進。 <p>2専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題に焦点を当てた研修会の実施。 ・児童・生徒の変化に気がつく、チーム力の向上。 ・キャリア教育の視点に基づいた、計画的な作業学習の実施。 <p>3保護者・地域社会との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の思いに寄り添う「地域とともにある学校」作りの推進。 ・学校運営協議会を活用し、つながりを意識した地域社会との連携の推進。 ・HPや地域資源を活かした、タイムリーな学校情報の提供。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教育目標の具現化・具体化及び組織的な学校経営の推進	各学部、各校務による学校経営方針を具現化するマネジメントの実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍明けの状況において、各部署が連携をし、教育目標に向かいスモールマネジメントで運営することができた。 ・新サーバーを円滑に運用し、校内データを有効活用することができた。アプリ導入によりプリント配信が可能となった。 ・感染症対策のため、適宜消毒や清掃に取り組んだ。 ・緊急対応訓練の取り組み方や回数について、必要な回数を適切な人数で実施できるように調整が必要。 ・ヒヤリハット事象が起こった時には、迅速に関係者が集まり情報共有することができた。 ・いじめアンケートの結果をもとに、スクールカウンセラーと連携をし、対応することができた。 ・年2回の実施となったが、学校運営に関わる具体的な協議ができた。 ・アプリ導入により、効果的な保護者への情報発信が可能となり、ホームページへの関心も高まった。 ・相談ケースの約半数が継続相談となり、継続性を重視した相談支援ができた。 ・地域のニーズに合わせて、研修会の講師派遣に応じた。
		ICT 機器の活用や会議の精選など業務内容の改善や見直しをとおした働き方改革の推進。	B		
	安心・安全を重視した取組の推進	感染症の状況に応じた生活行動様式の改善および徹底	B	B	
		様々な状況に対応できる緊急時対応訓練の実施	B		
		校内ヒヤリハット事象の迅速な報告、共有と教訓化（医療的ケアに限らない）	B		
		いじめ、不登校対応を意識し、児童生徒の一人一人の人権を大切にす取組の推進	B		
	地域社会に開かれた学校経営の推進	学校運営協議会の円滑な運営及び学校運営等への評価の活用	B	B	
		ホームページや配信等の活用による計画的かつタイムリーな教育内容の発信	A		
	「地域支援センターやわた」の機能を生かした地域における特別支援教育の推進	各地域や学校のニーズに対する機能的なアセスメント及び相談支援、研修支援の実施	B	B	
各関係機関との連携の強化（地域連携・福祉連携）		B			
教育課程・学習指導	プロジェクト会議による全校研究の牽引	全校的な研究主題の設定と研究活動の方向性の提示	B	B	
	ICT を効果的に活用した実践の推進	情報図書部を中心とした ICT 利活用に関わる研修会の企画	A		A
	新たな交流及び共同学習の創造	交流教育部と各学部の連携による組織的、計画的な取組の実施	B		B
	希望進路の実現に向けた進路指導の充実	各学部のつながりを意識した組織的かつ計画的な進路指導による希望進路の実現	B		B
進路実現に向けた保護者への情報提供や研修会の実施		A			

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼稚園、保育園も含めた教育機関や地域社会との連携を進め、「地域とともにある学校」作りをさらに推進していただきたい。 ・安心・安全を重視した取組の推進について、様々な状況に対応できる緊急時対応訓練が、個々の児童生徒の状況に応じて丁寧に実施されていた。
--------------	---

	<p>また、ヒヤリハット事象が起こった時には、迅速に関係者が集まり、情報を共有することができていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、京都八幡高等学校との交流及び共同学習の取組を工夫し、共生社会のモデルとなる教育活動の充実を継続していただきたい。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設との連携を深め、八幡支援学校の教育内容について広く発信する。 ・ICTを活用した積極的な授業改善や業務改善に取り組む。また、図書環境の整備を図る。 ・人が育つ研修会や研究会等を計画的に設定し、コミュニケーションの力や人権意識の向上に努める。 ・防災プロジェクトを設定し、児童生徒の安心安全に関わる取組について協議し、対応の仕方について整理する。